

1 研修テーマ

課題を分析し解決策を探し自分たちの手で実行する子を育てる指導
～思考力・判断力・表現力を育成する アントレプレナーシップ教育の推進を通して（2年次）～

2 テーマ設定の背景と目指す子ども像

R6年度の成果と課題

- 自ら課題を見つけ、解決に向かって主体的に考えたり工夫したりしながら活動することができた。
- 自分の役割を自ら探して活動する、失敗を恐れず挑戦する、仲間と協力する等、主体的・協働的に活動することができた。
- 相手意識を持ち、堂々と発表できるようになった。
- 情報収集し整理し、タブレットなどを使ってまとめながら発表するなどのスキルが高まった。
- 子ども同士で意見を出し合って活動を計画したり、経験に基づいて次の活動を考えたりできるようになった。
- △地域の取組について更に学び、地域住民との新たな連携やより発展的な繋がりをつくる。
- △他地域や他校との交流の幅を広げる。
- ◇アントレプレナーシップ教育推進モデル校（2年目）として、教育プログラムの開発に取り組む。
- ◇アントレプレナーシップ学習ワークブックを開発し発表する。

★R6年度 NRT 学校全体偏差値平均 国語 53.2 算数 55.3 (R5: 国語 52.5 算数 55.0)

目指す子ども像

課題を分析し、解決策を探し、自分たちの手で実行する子ども

吉田小学校教育のキーワード

共に楽しむ(ささやかな願いが叶う)学校

**令和7年度「学校教育の重点」
児童生徒が主役の授業づくりの
推進と確かな学力の育成**

「単元構想」「対話のある学び」

「ICTの活用」

中越教育事務所

**「授業づくりリーフレット
2025」**

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

「ICTの活用」

児童の実態

◎課題に真剣に向かって誠実に努力する。

◎アドバイス・教え合いは、相手に思いやりをもって伝えている。

◎学力の数値は全国・県に比べよい。

▲ワークテストの結果を見ると、「思考力・判断力・表現力」に弱さが見られる。

▲課題を分析し、解決策を探し、自分たちの手で実行する力が弱い。

▲自ら協力を求めたり、積極的に他者と繋がっていく力が弱い。

中学校区教師の願い

◆家庭学習を充実させてほしい。

◆自己決定・自己判断してほしい。

3 研修の内容

研究主題を達成するために以下の2つの視点から、学校行事を核として総合的な学習の時間・生活科を柱として各教科を関連させた教育プログラムを編成する。

(1) 思考力・判断力・表現力を育成するための学習課題の設定

目的意識、問題意識をもって学習に取り組むことができるように「学習課題の設定」を工夫する。子どもの問いや願いから追求課題を設定・共有することで、子ども自ら課題解決へ向かおうとする気持ちを高めさせる。

〈手立ての例〉

- ・子どもたちにとって必要感のある課題設定かどうか吟味する。
- ・自らの活動の意味や価値を吟味し、その意味や価値を高めるための工夫を凝らす。
- ・ゴールを設定し、ゴールに近づくための活動や理解を深めるための学びの場を設定する。
- ・課題解決のプロセスや、得られた学びを整理し広く発表する。

(2) 思考力・判断力・表現力を育成するための協働的な場面における教師の手立て

「追求する」展開の場面では、自力解決→集団解決と学習が進んでいく。協働的な場面において、全体で考えをより深められるよう、教師が何らかの働きかけを準備しておく。

〈手立ての例〉

- ・ICTの活用
- ・場面に応じたフレームワークの活用（バズセッション、ブレインストーミング、KJ法、等）
- ・意思決定を導くための調査に基づく資料作り（エビデンス）
- ・かかわり合い、教え合いの場
- ・個及び集団でのプレゼンテーション活動

※令和7年度は授業公開及び協議会は行わない。ただし、各自が教材研究を進めるとともに授業改善に努める。また、管理職及び研究主任が指導者の授業を観察し指導助言を行うとともにOJT形式で各自の実態に合わせた研修を行い、指導力の向上を目指す。

4 アントレプレナーシップ教育推進事業とのかかわり

(1) アントレプレナーシップ教育推進事業（資料：別紙事業計画書参照）

アントレプレナーシップとは、新たな事業を創造し、リスクに立ち向かう精神・姿勢のことを意味し、英語では、**entrepreneurship**と表記される。「イノベーションを武器として、変化のなかに機会を発見し、事業を成功させる行動体系」または「コントロール可能な資源を超越して、機会を追求する精神」と定義される。近年、日本企業においても、イノベーションをもたらす新たな価値を創出するための思考・行動要素として、アントレプレナーシップが大きく注目されており、起業家育成が我が国の大きな課題となっている。

吉田小学校は、新潟県教育委員会のアントレプレナーシップ教育推進モデル校として指定され2年目となる。昨年度の学習プログラムや指導計画を生かしながら、起業家や公民館、企業、地域人材と更に連携し、昨年度行った学習プログラム（栽培活動、販売提供活動、研究発表活動等の学習活動）を再点検し、学習の効果や指導効率および人材活用効果を更に高めていく。

このような実践を今年度の校内研修の柱の一つに位置付け、以下のような内容に取り組む。

- ・アントレプレナーシップ教育のためのワークブックの開発
- ・指導計画の立案と修正
- ・学習活動の進捗状況の確認
- ・問題点の共有及び解決の工夫
- ・具体的な作業
- ・学校全体での組織的な対応に向けた調整
- 等

5 指導力向上・授業改善に関わる研修を支える取組

(1) 振り返りの充実

子どもが分かったことを自分の言葉でまとめる（わがともの継続）。教師は子どもの理解の様子を把握し、認め励まししながら、新たな問いを引き出すなど、次の展開のきっかけとする。

振り返りの「わがとも」

わ：分かったこと が：がんばったこと と：友達から学んだこと も：もっと調べたいこと

〈 手立ての例 〉

- ・ 学びの振り返りの時間の確保
- ・ 毎回の授業での学びの振り返りを大切にし、次への意欲と結び付ける。

(2) 学級づくりスタンダードプランに基づいた学級づくり

- ・ 主体的・対話的で深い学びを図る授業づくり
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現
- ・ WEBQUを活用した学級づくり
6月、10月のWEBQU実施後に事例検討会を行う。WEBQUの結果から学級経営の取組を考える場とする。

(3) ICT活用の充実

- ・ ICTを活用して取り組む単元を決め、各自で実践する。（教科は問わない。）
- ・ ICT機器の活用を工夫する。

（市教委指導主事訪問によるデジタル教科書を活用した授業公開有：期日未定）

(4) 家庭学習の充実

- 家庭学習「学年×15分間×5日間」が達成できるように指導する。
- 年間3回「家庭学習頑張り週間」を設ける。土・日も含めて設定し、確実に達成できるよう支援する。
ビンゴカードやすごろく等、家庭学習頑張りカードを工夫し、目標時間を目指して取り組めるようにする。また、メディア接触コントロール(私のメディアルール)の指導と合わせて実施する。

＜家庭学習頑張り週間＞

- 第1回 6月 9日（月）～ 6月15日（日） ※6/10 メディアコントロール講演会
- 第2回 11月10日（月）～11月16日（日）
- 第3回 2月23日（月）～ 3月 1日（日）

(5) 地域人材の活用、体験活動の充実

生活科や総合的な学習の時間等で地域人材を積極的に活用する。また、学習内容や行事等に合わせ、体験活動も積極的に行うようにする。

(6) 「吉田の学び」

- 全校児童がA4クリアファイルに入れて保管し、「学習スキル」は掲示する。
- 1学期始めに2～10ページを指導する。（2・3学期は重点を決めて指導）
- 家庭学習で活用するよう11～16ページを指導する。

6 学校評価とのかかわり

(1) 目指す成果

- 意欲をもち、主体的に課題を追求し、解決する子どもの割合が80%以上になる。
- 国語・算数のワークテストで、思考力・判断力の得点が期待得点を上回る児童の割合が80%以上になる。
- 家庭学習頑張り週間の時、「15分×学年×5日」の家庭学習時間を行う子どもの割合が90%以上になる。
- 家庭学習頑張り週間以外の時、「15分×学年×5日」の家庭学習時間を行う子どもの割合が80%以上になる。
- 読書の目標冊数を超える児童が、80%以上になる。

(2) 具体的な取組

①授業づくり

- ・児童が「どうしたらいいかな?」「どういう方法があるかな?」と考え、自分の考えを分かりやすく表現し、友達と考えを交流することで自分の考えをさらに深めることができるような課題を1単元で3回以上設定する。
- ・振り返り「わがとも」の「㊦（もっと調べたい）」から、次の授業の課題を設定し、授業を実践を学期3回以上する。
- ・小規模校のよさを生かした、体験活動や校外学習の設定。
- ・地域人材の活用。

②基礎的・基本的な学力の定着

【テスト実施に関わって】

- ・定期的な習熟テスト
全学年で定期的に漢字と算数それぞれの小テストを行う。小テストを行う日を伝え、子どもたちが目標をもって学習できるようにする。また、3年生以上は月例テスト（国・算）を行う。月例テストは、テスト範囲を事前に児童と保護者に知らせる。
- ・ワークテスト前にプレテストに取り組む。
- ・ワークテストで、学年平均点が期待得点を下回った単元については、補充、再テストを実施する。再テストの結果も集計する。
- ・Webテストの分析と活用。
- ・NRTや全国学力テストにおいて、結果が良くなかった項目について、宿題や月例テストで取り組むなどして再度行い確実に補充する。

【読書に関わって】

すべての児童が、各学年の目標冊数を達成できるように以下のような手立てを講じる。

- ・全員で図書室に行く時間を設定する。
- ・児童の読書冊数を定期的に把握し、少ない児童に声掛けをする。
- ・児童が本に興味をもつよう、学級独自で読み聞かせなどの読書活動を行う。

③家庭学習習慣の定着

- ・学年に応じた家庭学習カードの工夫と定期的なチェック。
- ・家庭学習頑張り週間（年3回）の実施。

④アントレプレナーシップ教育推進

- ・児童一人一人が課題解決に向け、自ら企画し、準備し、運営する学習活動を展開する。
- ・個人またはグループで学習の成果を整理し、振り返り、発表させる。
- ・地域人材を適切に活用しその成果と課題を報告する。
- ・指導者は年度の学習活動のまとめを行い成果と課題を発表する。

7 令和7年度 研修カレンダー

月	日	曜	
4	9	水	○ 研修計画提案・各学年の指導計画の検討・課題の洗い出し ○ アントレプレナーシップ教育の共通理解
5	12	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認 ○ 各学級の指導計画の確認
6	9	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認・指導計画の修正 ○ ふれあいマーケット&YOSHIDA 祭参加についての構想
	23	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認・指導計画の修正 ○ 活動報告のためのプレゼン準備
7	14	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認・指導計画の修正 ○ <u>アントレプレナーシップ教育ワークブック編集会議</u>
	29	火	○ 大収穫祭への各学級の構想発表 ○ <u>画像による活動報告会①</u>
8	20	水	郡市教振一斉研修日
9	8	月	○ 2学期の見通し確認 ○ 各学級の指導計画の確認
11	26	水	○ 大収穫祭の振り返りと反省 ○ 学習のまとめ方についての検討
12	15	月	○ 授業の進捗状況・今後の見通し確認・指導計画の修正 ○ <u>画像による活動報告会②</u>
	25	木	○ 体験リーフレット作成 ○ <u>アントレプレナーシップ教育ワークブック編集会議（発行へ）</u>
3	16	月	○ <u>学習のまとめ発表（プレゼン）</u> ◇ 次年度の方向検討

※ワークブックの編集作業については研修計画とは別に進める。

※県への計画申請や実施報告等は管理職が中心となって進める。

<資料> 吉田の教師10か条

- 〈主体的な学び〉～学ぶことに興味や関心をもち、学び続ける児童生徒を育てます～
- 1 子どもの「問い」や「思い」を大切にしたい◎【追求課題】を設定します。
 - 2 分かりやすい指示や思考を促す発問をします。
 - 3 教材研究を生かした教材や教具の活用を工夫します。
 - 4 学びの成果や課題に気付く振り返りの工夫をします。
- 〈協同的な学び〉～他者と共に学び、学び合うよさを感じることで児童生徒を育てます～
- 5 児童生徒の考えを広げ、深めるための支援を工夫します。
 - 6 課題や状況に応じて学習形態を工夫し、児童生徒の学び合いを促します。
 - 7 得た知識を活用して、解決に向かう学習を展開します。
 - 8 児童生徒の学習状況を見取り、必要に応じて個別の支援を行います。
- 〈居場所づくり〉～学ぶ楽しさを感じたり、自己有用感を高めたりする児童生徒を育てます～
- 9 安心して発言できる環境を整え、児童生徒の考えや発言を生かして授業を進めます。
 - 10 児童生徒の気付きや学び、行動を児童生徒が認め合う場を設定します。